

製品安全データシート

整理番号 F001-1

1. 化学物質等及び会社情報	1.1 製品の特定	製品名	トヨタ ブレーキフルード 2500H		
		製品分類	ブレーキ液		
		主な用途	自動車用非鉱油系ブレーキ液		
	1.2 会社情報	会社名	株式会社 富士化工研究所		
		住所	〒418-0111 静岡県富士宮市山宮3507-18		
		担当部門	技術部		
		担当者	小林 雅彦		
		電話番号	0544-58-6262		
		FAX番号	0544-58-6266		
		緊急連絡先	株式会社 富士化工研究所		
		連絡電話番号	0544-58-6262		
		作成者	小林 雅彦		
		E-mail	fkkgijut@mb.infoweb.ne.jp		
制定日	1993年 10月 1日				
改定日	2000年 7月 11日				
2. 組成, 成分情報	単一製品・混合物の区別: 混合物				
	成分及び含有量				
	成分名	Cas. No	含有量	備考	
	グリコール		5~10		
	グリコールエーテル		70~75		
	ポリグリコール		10~15		
	ホウ酸エステル (但し, ホウ素として)		5 0.1		
防錆剤		1~3			
3. 危険有害性の要約	分類の名称: 分類基準に該当せず				
	危険有害性コメント				
<p style="text-align: center;">危険性: 消防法危険物第4類 第3石油類 (高引火点・水溶性) 引火点130°C (COC)</p> <p style="text-align: center;">有害性: 飲用不可 (毒性あり)。人により皮膚刺激性あり。眼刺激性あり。</p> <p style="text-align: center;">環境影響: 知見なし。</p>					

4. 応急措置	目に入った場合	ただちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。瞼の裏まで完全に洗うこと。 症状があれば、医師の診断を受けること。
	皮膚に付着した場合	付着液を紙、布にて素早くふき取ること。 大量の水及びセッケン等または皮膚用の洗剤を利用して洗い流す。 外観に変化が見られたり、痛みがある場合は医師の診断を受けること。
	吸入した場合	蒸気、ガスなどを吸い込んだ場合、ただちに空気の新鮮な場所に移し安静にする。症状があれば医師の診断を受ける。
	飲み込んだ場合	ただちに吐かせ、医師の診断を受ける。
5. 火災時の措置	使用可能消化剤	水 [○] , 炭酸ガス [○] , 泡 [○] , 粉末 [○] 乾燥砂 [○] , その他 [ハロゲン消化剤]
	消火方法	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な保護具を着用する（耐熱性着衣、呼吸保護具など）。 ・高温になると引火しやすくなるので水で冷却する。 ・可燃性のものを周囲から早く取り除くこと。 ・大規模火災には水または消化剤を使用する。
6. 漏出時の措置	<ul style="list-style-type: none"> ・少量の場合、おがくず、ウェス、砂、紙などを用いて吸着させて空容器に回収し、漏出域周辺を洗い流す。 ・多量の場合、盛土、土のう等で流出を防ぎ、回収処理する。 ・作業の際には適切な保護具（手袋等）を着用する。 ・流出物は密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。 ・付近の着火源、高温体および可燃物を早く取り除く。 ・着火に備えて適切な消化器を準備する。 ・流出液や洗浄水などは河川等に排出しないよう注意する。 ・廃棄物は関係法令等に基づいて処理する。 	
7. 取扱い及び保管上の注意	<p><u>取扱い上の注意</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定数量以上の量を取り扱う場合は、法に定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱い所で行うこと。 ・周辺での火気、スパーク、高温物の使用は避けること。みだりに蒸気を発生させないこと。 ・換気のよい場所で使用すること。 ・静電気が発生するおそれのある設備には、蓄積する静電気を除去する装置を設けること。 ・容器はそのつど密栓する。 ・多量に使用する場合は、皮膚、粘膜または着衣に触れたり、目に入らぬよう適切な保護具を着用する。 ・取扱い後は手洗い、うがい等を行うこと。 	

7. 取扱い及び保管上の注意 (続き)	保管上の注意	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 類の異なる危険物と同一の貯蔵所に貯蔵しないこと。 ・ 日光の直射を避けること。 ・ 通風のよい所に保管する。 ・ 火気、熱源から遠ざけて保管すること。 	
その他：消防法危険物第4類第3石油類の注意事項に従う。		
8. 暴露防止及び保護措置	管理濃度：規定なし。	
	設備対策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 局所排気装置を励行。 ・ 液体の輸送、汲取り、攪拌等の措置については、アースを取るよう設備すること。 	
	保護具	呼吸器系の保護
		必要に応じて有機ガス用マスクを使用する。
	目の保護	目にかからないように注意すること。 必要に応じて保護メガネを着用すること。
	皮膚の保護	有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。 必要があれば保護前掛けを着用する。
	その他の保護具	
9. 物理的及び化学的性質	状態	液体 [○] , 気体 []
		固体：固形状 [] , 粉末状 [] , ペースト状 []
		色：淡黄色透明 臭気：溶剤臭
		沸点：252℃ (JIS K2233平衡還流沸点) 蒸気圧：データなし Pa (℃)
		密度(比重)：1.047 (20℃)
		pH値(水性のものに対して)：9.5 (JIS K2233Iタ/ル・水希釈法)
		その他：溶解性 水に易溶(濁りを生ずる)。アセトン、アルコールに易溶。
10. 安定性及び反応性	製品特徴	引火点：130℃ (COC)
		発火点：最高 285℃ 最低 227℃ (ASTM D 2155-63T)
		爆発限界：(下限) データなし % , (上限) データなし % 燃焼性あり
	安定性反応性	条件(温度、光等) 通常の条件では安定
		接触により危険性のある物質：強酸化剤
		燃焼などによる有害性ガス発生：CO, NO _x 等が発生する。
		その他の反応性情報：通常の条件では安定。
その他の危険性情報		
特に情報なし。		

11. 有害性情報	組成物質有害性及び暴露濃度基準				
	物質名	管理濃度	ACGIH(TLV)	IARC	その他有害性
	組成物質に関するその他の有害性情報				
	製品に関する有害性情報 人により皮膚刺激性あり。眼刺激性あり。その他の有害性は知見なし。				
12. 環境影響情報	・漏洩時、および廃棄の際は注意を守ること。				
13. 廃棄上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・廃液、容器などの廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。 ・容器、機器装置などを洗浄した排水などは、地面や排水溝へそのまま流さないこと。 ・排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理、清掃に関する法律および関係する法律に従って処理を行うか委託すること。 ・焼却する場合は、少量ずつ焼却すること。 				
14. 輸送上の注意	<p>共通：取り扱い、保管上の注意の項の一般的注意に従う。</p> <p>陸上輸送：消防法等に定めるところに従う。</p> <p>海上輸送：船舶安全法に定めるところに従う。</p> <p>航空輸送：航空法に定めるところに従う。</p>				
15. 適用法令	消防法：危険物第4類 第3石油類（高引火点・水溶性）				
16. その他の情報	本製品は、J I S K 2 2 3 3 品（種類 B F - 3）				

注意：危険、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取り扱いには十分注意してください。